

令和7年度高齢者見守り相談窓口設置事業実施計画書

実態把握訪問

対象者宅へアウトリーチを行うことで、認知症の方・独居高齢者等の困りごとを含めた生活課題を見出し、適切な支援へつなげることを目指す。

【目標】 アウトリーチにより地域高齢者の生活実態の把握をおこなうとともに、困りごとに対して適切な支援に繋げる。	評価指標値 1000世帯/年	実績
【実施方法】 愛宕2～4丁目(4丁目は新都営住宅除く)、和田3丁目、乞田、貝取1丁目、永山1丁目、豊ヶ丘1丁目を訪問する。下半期からは、新たなサービス台帳への移行にともない対象者のレベル分けをおこなう。サービス台帳の整備を進めることで必要程度にあつた見守りが展開できるよう推進していく。		
【上半期振り返り】		
【下半期に向けて】		
【年間振り返り】		

来所・電話等による相談受付及び訪問

気軽に相談できる窓口として、市民のニーズ把握に努める。

【目標】 地域高齢者をはじめとする住民に対し啓発活動をおこない、気軽に相談できる窓口として認知される。	評価指標値 随時	実績
【実施方法】 実態把握訪問や地域活動の場において啓発活動をおこなう。有事の際に連絡が取りやすいよう、チラシ配布をする等工夫する。		
【上半期振り返り】		
【下半期に向けて】		
【年間振り返り】		

見守りネットワークの構築

対象者を地域で見守る・支えるためには、地域の様々な主体での見守りネットワークの構築が重要となっている。その核として、見守り相談窓口・地域包括支援センターが機能しているため、ネットワークの仕組みづくりや関係性の構築を図っていく。また、**プレフレイル状態の高齢者をターゲットに、見守り登録者人数の増加を目指し、フレイル予防の啓発活動を行う。**

【目標】	評価指標値	実績
------	-------	----

見守りネットワークを活用し孤立しがちな高齢者に定期的な見守り活動がおこなわれることで、介護予防や状況変化の早期発見・早期対応に繋げる。	見守り登録者 6人/年	
【実施方法】 実態把握訪問時の聞き取り、地域包括支援センターや地域の関係機関との連携の中で、日常生活に不安がある高齢者を見出し、見守り登録を促す。		
【上半期振り返り】		
【下半期に向けて】		
【年間振り返り】		

【目標】 見守り協力員の資質向上や活躍の場を増やすことで、担い手となる人材を育成し見守りネットワークの深化を図る。	評価指標値 研修の実施 2回/年	実績
【実施方法】 見守り協力員に対して研修を開催し、活動に役立つ知識を提供する。また、見守り登録者へのマッチングや訪問の形態を工夫するなどして協力員の活動の場が増えるよう働きかける。		
【上半期振り返り】		
【下半期振り返り】		
【年間振り返り】		

【目標】 地域の見守り機関と連携し、地域包括支援センターや見守り相談窓口を核とした地域高齢者の見守りネットワーク構築を推進する。	評価指標値 随時	実績
【実施方法】 地域住民組織・機関等の見守りネットワークを訪問し、関係性を構築する。把握した見守りネットワークは見守りネットワーク台帳に記録する。		
【上半期振り返り】		
【下半期振り返り】		
【年間振り返り】		

見守りサポーター、見守り協力員をはじめとした住民主体の活動を2層と連携しながら推進していく。

【目標】	評価指標値	実績
見守り協力員や第2層生活支援コーディネーターと連携しながら住民のニーズを把握し、不足している資源を開発する。	協力員会議の開催	
【実施方法】	6回	
アウトリーチによる聞き取りや協力員会議の中で上がった高齢者が生活する上での課題を整理し、解決に向けた検討と取り組みをおこなう。		
【上半期振り返り】		
【下半期に向けて】		
【年間振り返り】		

その他

支援を必要としている対象者を見極めるために、職員によるアセスメント能力を高めていく。また、様々な支援につなげることや、情報提供が行えるよう知識や情報の獲得を目指す。

【目標】	評価指標値	実績
対象者を適切な支援に繋げるため、職員の資質向上に取り組んでいく。		
【実施方法】	会議体へ参加	
自治体等のおこなう研修に参加する他、より実践的な知識を得るため、包括主催の事例検討会議(グッドライフミーティング等)に参加する。	12回/年	
【上半期振り返り】		
【下半期に向けて】		
【年間振り返り】		